

# 化学品の分類および表示に関する 世界調和システム（GHS）

改訂2版



国際連合

ニューヨーク ジュネーブ、2007

## 注 記

この出版物において使用している呼称および文章の表現は、国家、領土、市もしくは地域、またはその行政機関の法的な位置づけ、あるいはその国境や領域に関して、国連事務局としてのいかなる見解をも意味するものではない。

ST/SG/AC.10/30 Rev.2

版權 © 国際連合、2007

無断転載禁ず

国際連合の事前の書面による承諾なく、販売目的で本出版物のいかなる部分も、いかなる様式でも、および電子的、電氣的、磁気テープ、機械的、写真複写、またはその他のいかなる手段を問わず、転載、情報検索システムへの保存、および伝達を禁止する。

国連出版物  
販売番号 E.07.II.E.5  
ISBN -13:978-92-1-116957-7

## 序文

1. 本文書に記述される化学品の分類および表示に関する世界調和システム（The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals）（GHS）は、10年以上にわたる作業の成果である。多数の国々、国際機関および関係団体の多くの人々が関与してきた。このシステムを完成させるための作業は毒物学から消防まで広範囲の専門分野にわたり、また、その調整には多大な努力がはらわれた。
2. この作業は、化学品の分類、表示および安全データシートの統一的な世界調和システムを開発するためには、既存のシステムを調和させるべきであるということから始まった。国連危険物輸送専門家委員会（UNCEDTG）の作業に基づく輸送部門における物理化学的危険性と急性毒性の分類と表示の調和は既に広く実施されていたので、このシステムは全く新しい概念というわけではなかった。しかし、作業場や消費部門における調和はまだなされておらず、また各国の輸送に係る要求事項も、他の部門における要求事項と調和していないことも多かった。
3. 国際的な取り決めである、1992年の国連環境開発会議（UNCED）において採択されたアジェンダ21、第19章、第27項が、この作業を完成させるための推進力となった。  
*「安全データシートおよび容易に理解できるシンボルも含めた、世界的に調和された危険有害性に関する分類および表示システムを、可能であれば西暦2000年までに利用できるようにするべきである。」*
4. 作業の調整および管理は、化学品の適正管理のための国際機関間プログラム（IOMC）の化学品分類システムの調和のための調整グループ（CG/HCCS）が行った。作業を完成させるための技術的な活動の中心は、国際労働機関（ILO）、経済協力開発機構（OECD）、国連経済社会理事会の危険物輸送に関する専門家小委員会（UNSCETDG）であった。
5. 作業は2001年にいったん終了した後、IOMCから国連経済社会理事会の新しい委員会である「化学品の分類および表示に関する世界調和システムに関する専門家小委員会（UNSCEGHS）」に引き継がれた。この小委員会は、1999年10月26日の理事会決議1999/65に基づき設立されたもので、同時に「危険物輸送ならびに化学品の分類および表示に関する世界調和システムに関する専門家委員会」（UNCETDG/GHS）と改名された旧UNCETDGの下部組織である。委員会およびこの小委員会は2年間単位で作業を行う。
6. UNSCEGHSは、GHSの維持およびその実施の促進に責任がある。UNSCEGHSは、このシステムの各国への導入を進めるためにその安定性を維持すると同時に、必要に応じて、補足的な指導書を提供する予定である。この組織の下で、本文書は、国、地域および国際法へ適用する際に得られた、それぞれの経験ならびに分類および表示を行っている者の経験を反映させるために、改訂および更新がなされる予定である。
7. UNSCEGHSが最初に取り組んだ課題は、GHSの世界的な利用と適用を可能にすることであった。GHSの初版は、このシステムの最初の実施に供されることを目的として、委員会の最初の会合（2002年12月11-13日）で承認され、ST/SG/AC.10/30として2003年に出版された。第2回目の会合（2004年12月10日）でGHSは修正され、ST/SG/AC.10/32/Add.3とST/SG/AC.10/32/Add.3/Corr.1は統合された。この改訂第1版では、新しい吸引性呼吸器有害性条項やSDSを準備する際の注意書きと絵表示の手続きを含んでいる。

8. 第3回専門家委員会（2006年12月5日）において、GHS改訂初版の修正案一式が採択され、ST/SG/AC.10/34/Add.3およびST/SG/AC.10/34/Add.3/Corr.1としてまとめられた。このGHS改訂2版ではこれらすべての修正を反映させており、とりわけ火薬類、呼吸器および皮膚感作性、ガスおよびガス混合物の吸入による毒性に関する分類と表示、そして選択可能方式の解釈に関する手引き、化学品の発がん性の強さに関する評価さらに危険有害性情報および注意書きのコードに関して新しいあるいは改訂された項目が含まれている。
9. 持続可能な開発に関する世界首脳サミットは2002年9月4日にヨハネスブルグで採択した行動計画23(c)において、2008年までにGHSという新しいシステムを完全に実施することを目指して、各国ができる限り早期にGHSを実施するよう奨励した。後に2003年7月25日の2003/64および2005年7月27日の決議2005/5において、国連経済社会理事会はまだ実施していない政府に対し、WSSDの実施計画にあるようにGHSを実施するために、行政手続きや法令を整備すること等により、必要な手段を講じるよう促した。国連経済社会理事会はまた、地域共同体、国連計画、特定の官庁やGHSを推進するその他の関係組織に対し、GHSを効果的にするために輸送安全、労働安全、消費者保護や環境保護に関する国際関連法令を修正することを求めた。
10. 本文書は、主要な対象者を、各国政府あるいは地域政府とするが、各国で採用されている国内の要求事項を最終的に実行する産業界の関係者のための十分な内容およびガイダンスも含んでいる。化学品とその危険有害性および人々を保護する方法に関する情報が利用可能になれば、化学品の安全管理に係る国家プログラムの基礎ができるであろう。世界中の国々における化学品管理の拡大は、化学品の利用による便益を得ながら、世界の人々と環境をより安全な状態に導くであろう。化学品の分類および表示に関する世界調和は、貿易を行う企業が守らなければならない化学物質の危険有害性に関する分類および情報の伝達に関する各国の要求事項がより一貫性をもつことから、国際貿易の促進にも役に立つであろう。
11. この文書は、化学品の分類および表示に関する世界調和システムに関する専門家委員会の事務局を務めている国連欧州経済委員会（UNECE）事務局により作成された。
12. この文書が発行された後の訂正を含め、委員会や小委員会の作業に関する追加情報は、UNECE 輸送部門のウェブサイト <http://www.unece.org/trans/danger/danger.htm> および [http://www.unece.org/trans/danger/danger/publi/ghs\\_welcome\\_e.html](http://www.unece.org/trans/danger/danger/publi/ghs_welcome_e.html) で閲覧することができる。

# 目次

	頁
<b>第1部 序</b>	
1.1章 化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）の効果、 範囲、適用	3
1.2章 定義および略語	11
1.3章 危険有害性のある物質と混合物の分類	17
1.4章 危険有害性に関する情報の伝達：表示	23
1.5章 危険有害性に関する情報の伝達：安全データシート（SDS）	35
<b>第2部 物理化学的危険性</b>	
2.1章 火薬類	43
2.2章 可燃性/引火性ガス	51
2.3章 可燃性/引火性エアゾール	55
2.4章 支燃性/酸化性ガス	59
2.5章 高圧ガス	63
2.6章 引火性液体	67
2.7章 可燃性固体	71
2.8章 自己反応性化学品	73
2.9章 自然発火性液体	79
2.10章 自然発火性固体	81
2.11章 自己発熱性化学品	83
2.12章 水反応可燃性化学品	87
2.13章 酸化性液体	91
2.14章 酸化性固体	95
2.15章 有機過酸化物	99
2.16章 金属腐食性物質	105

## 目次 (つづき)

	頁
<b>第3部 健康に対する有害性</b>	
3.1章 急性毒性	109
3.2章 皮膚腐食性/刺激性	121
3.3章 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	133
3.4章 呼吸器感作性または皮膚感作性	147
3.5章 生殖細胞変異原性	157
3.6章 発がん性	165
3.7章 生殖毒性	175
3.8章 特定標的臓器毒性 (単回暴露)	187
3.9章 特定標的臓器毒性 (反復暴露)	199
3.10章 吸引性呼吸器有害性	209
<b>第4部 環境に対する有害性</b>	
4.1章 水生環境有害性	217
<b>附属書</b>	
附属書1 ラベル要素の割当て	239
附属書2 分類および表示に関する一覧表	261
附属書3 危険有害性情報のコード、注意書きのコードと 使用法および注意絵表示	295
附属書4 安全データシート作成指針	397
附属書5 危害の可能性に基づく消費者製品の表示	417
附属書6 理解度に関する試験方法	423
附属書7 GHS ラベル要素の配置例	439
附属書8 世界調和システムにおける分類例	449
附属書9 水生環境有害性に関する手引き	459
附属書10 水性媒体中の金属および金属化合物の変化/溶解に関する手引き	543